

東日本大震災後初の防災訓練 日頃の訓練の必要性を痛感

「地域防災計画」が「つくられています」が、読んでみざといふ時どのような展開になるのか具体的なイメージを持つことができずにいました。8月28日、市内で防災訓練が行われ、青墓小学校で行われた「総合防災訓練」を見学しました。

大垣市議会議員 笹田 トヨ子

地震発生を想定 しての防災訓練



8時「地震発生」を想定して、青墓地区の住民は一時避難場所に集合した後、指定避難場所の青墓小へ8時半までに集合といった想定で防災訓練が始まりました。現地災害対策本部設置、災害情報収集、被害状況収集、炊き出し、救援物資配布、ボランティアセンター設置など防災計画にある内容を次々と実施。当日参加された地域のみなさんお疲れ様でした。以下、その内容を写真でお知らせします。



写真3：応急救護所（エアータント）を設置し、応急処置（トリアージ）を行う。住民が負傷者となり、医療関係者が医療処置。



写真4：救援物資輸送、彦根市、長浜市、伊賀市など相互応援協定市やコープや企業などより救援物資輸送。



写真5：道路上のがれき撤去を建設業協会がおこないました。



写真1：小学校6年生の女子が負傷者を応急担架で搬送。



写真2：防災ヘリ救出訓練



写真6：有毒ガス漏洩現場の救出訓練、消防隊員が救出を行い、医師派遣で応急医療を行う。



写真7：仮設トイレ



写真8：煙体験ハウス

東海・東南海地震への備えを

東日本大震災は、マグニチュード9の巨大地震でしたが、東海・東南海地震もここ30年の間に起きると言われ、しかも、東海地震と東南海地震の複合型になるのではと言われています。

いざという時、何をすればいいかと考えた場合、日頃から体で体験する意味は大きいと思います。ただ、現在の大垣市の「地域防災計画」では、M9クラスの地震や原発事故の想定はされておらず、見直しが求められます。自然災害の発生は避けられませんが、福島原子力発電所の原発事故は人災です。原発は核エネルギーのコントロールが技術的に未確立で、制御できない原発は廃止するかその災害を防ぐことができないのではないのでしょうか。